

第Ⅱ期足助中央商店街活性化計画

平成23年度－25年度

1. 第Ⅰ期(平成20年度－22年度)商店街活性化計画の取組状況	
(1) 第Ⅰ期商店街活性化計画の基本方針	1
(2) 目標の達成状況	1
(3) 商店街活性化計画事業の実施状況一覧	2
(4) 商店街活性化計画の主な事業の成果	3
2. 第Ⅱ期(平成23年度－25年度)商店街活性化計画作成にあたって〈現状と課題〉	
(1) 組合員の現状	4
(2) 足助中央商店街を取り巻く現状と課題	5
3. 第Ⅱ期(平成23年度－25年度)商店街活性化計画の基本方針等	6
(1) 活性化の方向性	
(2) 活性化の基本方針	
(3) 計画の進め方	
(4) 目標数値	
4. 商店街活性化計画事業一覧	7
(1) 5年間のスケジュール	
(2) 第Ⅱ期(平成23年度－25年度)商店街活性化計画事業の一覧・実施時期	
5. 主な事業の具体的な内容	8
(1) 強化事業	
(2) 新規事業	
6. 推進体制	9
7. 活動記録(計画策定のワークショップ等)	10

平成 23 年 3 月 8 日

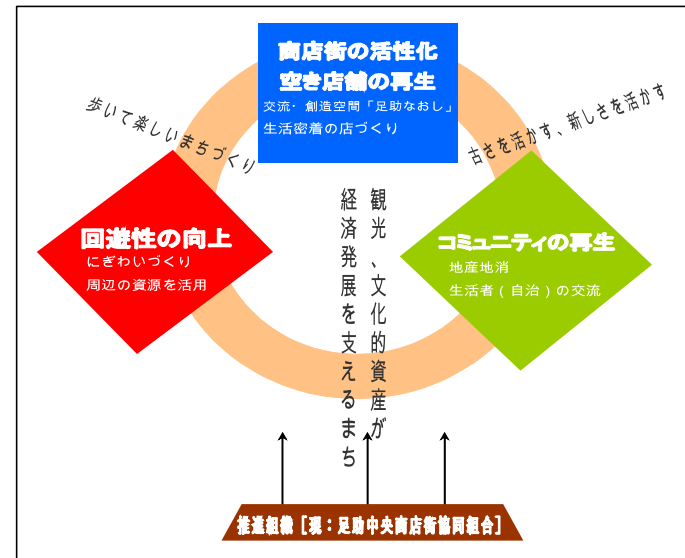
足助中央商店街協同組合

1. 第 I 期(平成20年度—22年度)商店街活性化計画の取組状況

(1) 第 I 期商店街活性化の基本方針

“江戸から昭和までの時代” “四季”を感じるまちの中で、
本物を守る商店街を目指します。

- ◎足助地区商業の魅力向上のため、空き店舗への対応や新規創業者の導入や誘致が必要。
- ◎魅力的な観光資源や街並みを活用し、着実に商いに結びつける方策が必要。
- ◎高齢化社会に備え、商店街及び商店街周辺の日常の買い物に十分対応できることが必要である。
- ◎事業を効率的かつ効果的に推進するための組織づくりが必要である。



(2) 目標の達成状況

目標内容	指標・目標数値
①足助地区商業の魅力向上 ・営業店舗数の増加を目指す	営業店舗10店舗増加
・空き店舗の解消を目指す	空き店舗10店解消
・小売販売額の増加を目指す	小売販売額3%増加
②観光資源や街並みを活用した回遊性の向上 ・歩行者通行量の増加を目指す	平常時10%増加、繁忙期20%増加
③足助地区の日常の買い物への対応が向上 ・小売吸引力の向上を目指す	0.51(平成16年現在)を0.01引き上げる

達成状況(平成22年度)
23店舗の増加 商店街組合員数(営業店舗数) H20年度103店舗 → H22年度126店舗
3店舗が解消 小売販売額は2%減少 (平成16年と平成20年の比較) 〈参考1〉H16年543,879万円 → H20年533,553万円 [資料:とよたの商業/豊田市] ※足助地区の人口の減少にともない、小売販売額も減少していると思われる。
平常時は7.7%減少 / 繁忙期は7.5%増加 3地点(足助商工会、郵便局、JAあいち)の歩行者通行量 [資料:歩行者通行量調査/足助商工会] ・平常時(香嵐渓紅葉シーズンピーク前後の平日)H21年11月3,130人 → H22年11月2,888人 ・繁忙期(香嵐渓紅葉シーズンピーク休日)H21年11月5,636人 → H22年11月6,061人
地元購買率が減少 〈参考〉買回品購買率 H11年8.6% → H21年2.7% [資料:消費者購買動向調査/愛知県]

1. 第 I 期(平成20年度－平成22年度)商店街活性化計画の取組状況

(3)商店街活性化計画事業の実施状況一覧

目的	第1期[平成20年－22年] 商店街活性化計画事業			第 I 期商店街活性化計画の事業評価	
	事業名	内容			
商業の活性化・ 空き店舗の再生	1	新規	空き店舗活用	・空き店舗調査、必要業種の検討 ・活用プラン構築 ・具体的な活用、実施	空き店舗・空家の調査済み、数店と交渉したが、活用事業に至らず。
商業の活性化・ 空き店舗の再生	2	新規	あすけぬくもりコレクションの 育成(一店逸品運動)	・『あすけぬくもりコレクション』現在20軒を拡充	定期的に会議や勉強会を実施したが、当初の参加店20店舗の維持に留まった。
商業の活性化・ 空き店舗の再生 コミュニティの再生	3	新規	塩の道づれ(市の開催)	・塩の交流 ・地産地消による周辺住民との交流	●現在「中馬なごやか市」に名称変更し、開催中である。 ●地元農家による農作物の直売や、豊田市シルバー人材センターの出店、商店街によるおしるこや猪汁のふるまいを行い、地産地消や周辺住民との交流が図れた。 ・中馬なごやか市を1年間続けてきて、市が定着しつつある。 ・中馬なごやか市開催に合わせた商店街の取組みや商店街への波及が課題である。
商業の活性化・ 空き店舗の再生	4	継続	ポイントカード推進事業	・加盟店の拡大 ・端末機の更新の検討 ・顧客管理可能なシステムの導入を検討	顧客管理可能等消費者のニーズに合ったシステムへの移行や事業拡大を今後検討したい。
商業の活性化・ 空き店舗の再生 コミュニティの再生 回遊性の向上	5	継続	既存イベントの活用	・既存イベントを活用した個店の販売促進活動を支援 (夏まつり、年末売出し、中馬のおひなさん)	既存イベントの活用は現在も継続中。 四季に合わせてイベントが開催されており、客足が増えつつある。
商業の活性化・ 空き店舗の再生	6	新規	商業に関する調査事業	・消費者ニーズ等調査によるPDCAサイクルの確立	商業に関する調査事業は足助商工まつりでアンケートを実施してきた。 毎年、11月に歩行者通行量調査を実施してきた。
商業の活性化・ 空き店舗の再生	7	新規	利便性向上のための勉強会開催	・営業時間20時まで延長等利便性向上の検討	利便性向上のための勉強会を意欲的に開催したが、営業時間の延長には至らなかった。
商業の活性化・ 空き店舗の再生 コミュニティの再生 回遊性の向上	8	新規	商店街組織強化事業	・発展会の法人化、統合による効率的な事業推進	商店街組織強化については、各発展会をまとめ、足助中央商店街協同組合を設立し、活動中。
回遊性の向上	9	新規	商店街環境事業の研究、検討	・観光案内を兼ねた誘導看板設置の検討 ・街路灯、駐車場リニューアルの検討 ・街並み景観にふさわしい意匠の店頭看板設置の検討	環境整備は、今年度スタートした下水道整備、電線類地中化工事等豊田市の進捗を見ながら検討する。

1. 第 I 期 (平成20年度—平成22年度) 商店街活性化計画の取組状況

(4) 商店街活性化計画の主な事業の成果

事業名「3 塩の道づれ(市の開催)」

- ・平成21年1月に「足助いなり市」の名称で市がスタート。平成21年7月より、公募で決まった「中馬なごやか市」に名称変更した。
- ・毎月第3日曜日に固定し、開催している。
- ・スタート当初は、商店街で、開催日ごとに会場を変えて実施していたが、現在は『新田町駐車場』に場所を固定し行っている。
- ・市の日に店頭に商品を並べて販売する「わけありワゴンセール」に取り組む店舗が増加している。
- ・なごやか市を1年間続けてきて、市が定着しつつある。



中馬なごやか市の様子



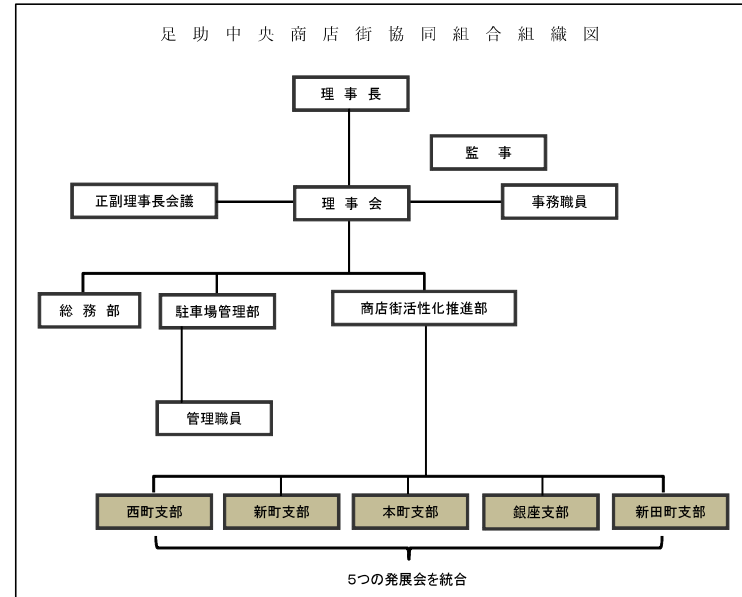
店頭のわけありワゴンセール



新聞折込チラシ

事業名「8 商店街組織強化事業」

- ・平成20年度に、5つの発展会を統合・法人化し、以降、効率的な事業推進を務めている。



2. 第Ⅱ期(平成23年度－25年度)商店街活性化計画作成にあたって〈現状と課題〉

(1) 組合員の現状

① 商店街組合員数の変化

5つの発展会を統合し、組織の法人化を図った結果、組合員数が23店舗増加し、126店舗となった。

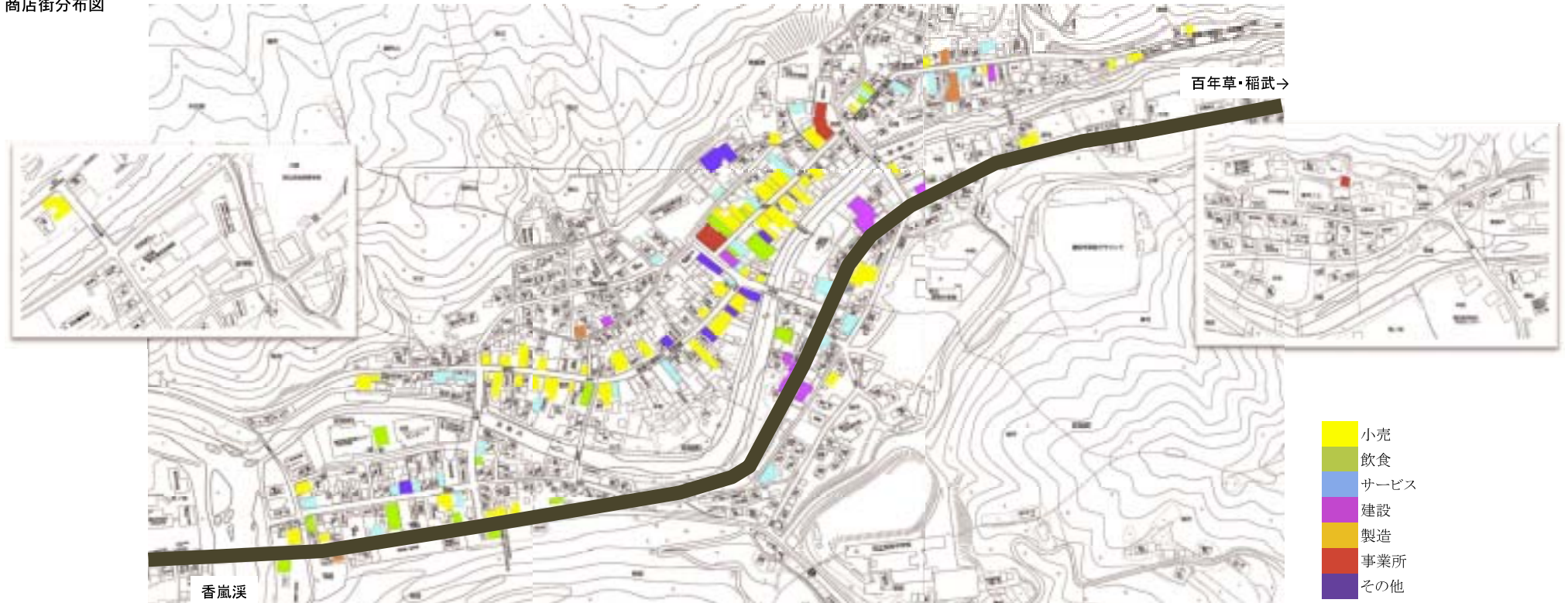
	足助中央商店街協同組合					全 体
	新田町	足助銀座	本町	西町	新町	
平成22年	17店	34店	35店	24店	16店	126店
平成20年	17店	33店	37店	0店	16店	103店
増 減	0店	1店	-2店	24店	0店	23店

② 商店街組合員の業種別構成

小売業が46.8%で約半数を占めている。次いで多いのが「サービス業」である。

	小売業	飲食業	サービス	製造業	建設業	その他	全 体
組合員数	59店	16店	25店	3店	10店	13店	126店
構成比	46.8%	12.7%	19.8%	2.4%	7.9%	10.4%	100.0%

商店街分布図



2. 第Ⅱ期(平成23年度－25年度)商店街活性化計画作成にあたって〈現状と課題〉

(2) 足助中央商店街を取り巻く現状と課題

〈地元購買力の課題〉

従来から周辺市町への消費流出が高く、足助地区の地元購買力が弱い
隣接地区内の大型店、大型専門店で流出していると思われる

〈地元購買力の現状〉

- ・豊田市全体の71.0%と比べると、足助地区の地元購買力はかなり低い数値となった。
- ・小原地区に次いで低い数字である。

《買回品の地元購買率の変化》

	H21年	H11年	差
足助地区	2.7%	8.6%	-5.9%
旭地区	7.5%	15.5%	-8.0%
稲武地区	5.0%	11.4%	-6.4%
小原地区	0.0%	6.6%	-6.6%
市全体	71.0%	87.2%	-16.2%

《足助地区の利用頻度の高い買物場所 上位3位》

美里・東山町・志賀町周辺 (ジャスコ高橋、ヤマナカ御立等)	37.7%
国道248号線周辺 (ジャスコ豊田店等)	14.5%
名鉄豊田市駅周辺 (松坂屋、T-FACE等)	12.0%

[資料: 消費者購買動向調査結果報告書/愛知県]

〈歩行者通行量の課題〉

香嵐渓入り込み客のピークに比例して、商店街区の歩行者通行量も増加する
しかし、街区内の回遊には至っていない

〈歩行者通行量の現状〉

- ・繁忙期(香嵐渓シーズン)の休日の通行量は増加し、平日は減少している。
 - ・商工会、郵便局、JAあいちの順で、香嵐渓から遠のくにつれ、通行量が少なくなっている。
- 商店街区内の回遊が少ないと思われる。

《休日》	H22年11月		H21年11月		H20年11月 ※	
地点	歩行者数	歩行者数	H22/H21比	歩行者数	歩行者数	H22/H20比
足助商工会前	2,944人	2,499人	117.8%	1,462人	201.4%	
足助郵便局前	2,087人	2,007人	104.0%	970人	215.2%	
JAあいち豊田前	1,030人	1,130人	91.2%	524人	196.6%	
3地点計	6,061人	5,636人	107.5%	2,956人	205.0%	

《平日》	H22年11月		H21年11月		H20年11月 ※	
地点	歩行者数	歩行者数	H22/H21比	歩行者数	歩行者数	H22/H20比
足助商工会前	1,234人	1,237人	99.8%	1,066人	115.8%	
足助郵便局前	1,125人	1,259人	89.4%	1,095人	102.7%	
JAあいち豊田前	529人	634人	83.4%	439人	120.5%	
3地点計	2,888人	3,130人	92.3%	2,600人	111.1%	

※H20年と比べH22年の伸長率が高いのは、香嵐渓の入り込み客のピーク日に調査したため。

[資料: 歩行者通行量調査/足助商工会]

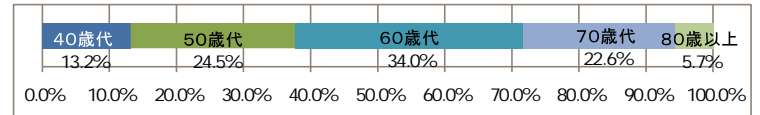
〈店主の高齢化・後継者の課題〉

店主の高齢化、後継者不足の影響を受け、空き店舗が増加する恐れがある

〈店主の年齢構成及び後継者の有無の現状〉

- ・店主の年齢構成は、60歳代が34%と最も高く、60歳以上で62.3%を占める。高齢化の傾向にある。
- ・後継者がいないという回答は32.7%で、後継者未定も合わせると53.1%となる。現在の組合員のうち半数が閉店のおそれがある。

《店主の年齢》



《後継者と経営の引き継ぎについて》

後継者がいる、実質的には引き継いでいる	18.4%	40.8%
後継者の候補はいるが、まだ引き継いでいない	22.4%	
後継者の候補はいないが、誰かに引き継ぎたい	20.4%	53.1%
後継者の有無にかかわらず、自分の代でやめるつもり	32.7%	
その他	6.1%	
合計	100.0%	

[資料: 平成22年度商業者意識調査 / 足助中央商店街]

〈足助地区の人口及び少子高齢化の課題〉

足助地区の人口が年々減少傾向にある

65歳以上の高齢者の構成比が高く、14歳以下の構成比が低いことより、今後さらに人口の減少が懸念される

〈足助地区居住者数及び少子高齢化の現状〉

- ・足助地区の人口は年々減少傾向にあり、20年前の平成2年と比較すると、約1,700人減少した。
- ・逆に、世帯数は増加している。
- ・65歳以上の構成比が32.3%で、豊田市全体の16.8%と比べると非常に高い。14歳以下の構成比は9.9%と、豊田市全体の15.0%と比べると低い。

《年齢別人口》

年齢	足助地区		豊田市全体	
0～14歳	915人	10.2%	64,520人	15.2%
15～64歳	5,180人	57.8%	289,562人	68.3%
65歳～	2,871人	32.0%	69,740人	16.5%
計	8,966人	100.0%	423,822人	100.0%

《足助地区の人口・世帯数の推移》

	人口数	伸長率※	世帯数	伸長率※
平成2年	10,700人	1.00	2,671人	1.00
平成17年	9,587人	0.90	2,835人	1.07
平成22年	8,966人	0.84	2,871人	1.08

※伸長率は、平成2年の数値を1として計算。

[資料: 豊田市の人口/豊田市]

3. 第Ⅱ期(平成23年度－25年度)商店街活性化計画の基本方針等

(1) 活性化の方向性

商店街の課題まとめ

- 周辺市町への消費流出が高く、足助地区の地元購買力が弱い。隣接地区内の大型店、大型専門店に流出していると思われる
- 香嵐渓入り込み客のピークに比例して、商店街内の歩行者通行量も増加するが、商店街区内の回遊には至っていない
- 店主の高齢化、後継者不足の影響を受け、空き店舗が増加する恐れがある
- 足助地区の人口が減少傾向にある。少子高齢化がすすんでいる

組合員の商店街事業への要望

- 「空き店舗対策」と「足助らしい町並の形成」に関する事業実施の要望が高い
[資料:平成22年度商業者意識調査/足助中央商店街]

空き店舗にしない、空き店舗を解消する事業	29.5%
足助らしさを持たせた外観をつくる事業	21.4%
駐車場の整備、確保する事業	16.1%
お店を紹介する情報発信事業	12.5%
ポイントカードなどのサービス事業	10.7%
イベントや催し物事業	9.8%

足助中央商店街ワークショップまとめ

- 第Ⅰ期事業の評価、見直しを基に、第Ⅱ期事業計画を立てる
- 空き店舗対策を含め、個店の充実と強化を行う
- 「商店街、個店」の情報発信・PRの強化を行う
- 観光客と地元客の双方に対応した商店街を目指す
- 女性客をターゲットとする

活性化の方向性

- 地元購買力の低下、人口の減少や高齢化を見ると、日常の買い物対応だけでは売上確保が年々困難である。観光客を誘致し、観光客に対応した商売に販路を広げることが必要である。
- 空き店舗の増加により店舗の連続性が損なわれ、街区全体の魅力の低下の恐れ。早急に、「空き店舗にしない」、又は「空き店舗を解消する」対策が必要である。
- 第Ⅰ期で実施した事業を検証・見直し、第Ⅱ期の計画を策定する。
- 「重要伝統的建造物群保護地区認定(平成23年度予定)」や、足助地区のインフラ整備と連携し、ほぼ整備が完成する5年後を見据えた事業計画とする。

(2) 活性化の基本方針

コンセプト **“江戸から昭和の時代” “四季折々”を、お客さまに感じていただける商店街を目指します。**

- ◎ 「歴史・文化」「自然」「季節のイベント」を活かし、観光客に対応する商店街
- 足助地区及び周辺の住民の日常の買い物やコミュニティに対応できる商店街

- ターゲット
- ◎ 広域からの観光客
 - 足助地区及び周辺の住民(生活者)
- 幅広い年代の女性

(3) 計画の進め方 ※「重要伝統的建造物群保護地区認定(平成23年度予定)」や、足助地区のインフラ整備と連携し、ほぼ整備完成後5年後を見据えた事業計画とする。

第1ステップ〈3年〉

平成23年度－25年度 **商店街組織・個店の充実と強化**

道路等整備工事期間中に、内部充実の事業展開、完成後の事業の準備・検討

第2ステップ〈2年〉

平成26年度・27年度 **環境・景観にマッチした商店街・個店づくり**

道路、景観等整備が完成し、多くの来街者に対応できる魅力ある商店街・個店づくり

(4) 目標数値

① 歩行者通行量を2.3%増加

H22年実績	6,061人	→	H25年目標	6,200人
--------	--------	---	--------	--------

計測日：紅葉期観光客ピーク時の休日

② 空き店舗1店舗を積極的に解消する

計測場所：足助商工会・足助郵便局・J A あいち豊田足助支店の計3地点

4. 活性化計画事業一覧

(1) 5年間のスケジュール

平成23年度～25年度

商店街組織・個店の充実と強化

●強化事業

- ①空き店舗活用事業←事業内容の再構築
- ②ポイントカード推進事業←充実、再構築
- ③中馬なごやか市事業←見直し、充実

●新規事業

- ⑦個店のゆるやかな業種転換(1店舗2業種)
- ⑧店舗ガイドブックの発行
- ⑨(仮)おかみさんPR隊
- ⑩店舗ガイドブックの発行
- ⑪商店街エリアの拡大の検討(宮町、松栄町一帯への拡大)

●継続(見直し)事業

- ④あすけぬくもりコレクション
- ⑤研修会
- ⑥調査事業

平成26年度・27年度

環境・景観にマッチした商店街・個店づくり

事業内容を検討、修正しながら実施継続

- 検討内容 ※市の道路、景観整備の進捗状況を見ながら検討
商店街ハード整備事業の検討(駐車場、駐輪場、店舗看板、ファサード等)

(2) 第Ⅱ期(平成23年度～25年度)商店街活性化計画事業の一覧・実施時期

□ は実施年度、以外は検討期間

事業名			具体的な内容	実施時期
1	継続	強化事業 空き店舗対策事業 (足助商工会と連携)	・足助商工会と連携し、空き店舗(家)の活用及び、 空き店舗(家)にしない方策を検討する ・足助地区商業配置計画に基づいた、業種やテナント の導入を検討する	H24年: 対象空き店舗(家)、入居者の検討・選定 □ H25年: 実験店舗開店
2	継続	強化事業 ポイントカード推進事業	現在のもみじカード組織及びカード事業の現状を把握し、 再構築を図る	H23年: 組織、事業内容の現状の検証 H24年: カード事業の再構築、事業費試算 □ H25年: 実施
3	継続	強化事業 中馬なごやか市事業	・毎月第3日曜日に市を開催する ・地元のみならず、観光客を意識した市の展開を検討する ・商店街への波及方法を検討する	H23年～ H25年: 見直し→修正実施
4	継続	見直し事業 あすけぬくもりコレクションへの協力 (一店逸品運動)	あすけぬくもりコレクションの活動内容に沿った協力、 支援を行う	H23年～ H25年: 継続実施
5	継続	見直し事業 研修会	商業者のニーズにあった研修会を開催する	H23年～ H25年: 年数回の開催
6	継続	見直し事業 商業に関する調査事業	消費者ニーズ等調査によるPDCAサイクルの確立する	H23年～ 毎年11月歩行者通行量調査 H25年: 消費者ニーズ調査、商店街店主調査 を3年に1回実施
7	新規	重伝建を見据えた個店のゆるやかな 業種転換事業	・1店舗2業種の展開等、本業以外の業種の展開をし、 個店の魅力化を図る ・店舗の軒先や売場面積の一部を貸し出す「一坪ショッ プ」を行い、商店街の魅力化を図る	H23年～ H25年: 3年のうち1店舗の実施を目指す
8	新規(商業活性化推進交 付金事業より移行)	集客イベント事業	・既存イベントを活用する(夏まつり) ・(香嵐渓等)観光資源を活用し、観光客の入り込みを図 るイベントを開催する	H23年～ H25年: 見直し→修正実施
9	新規	(仮)おかみさんPR隊	女性客の取り込みを目指し、積極的なPR活動を行う	H23年～ H25年: 必要に応じて、活動を行う
10	新規	店舗ガイドブック発行事業	足助ならではの店はサービスの紹介を行う	H23年: 掲載内容の検討 □ H24年: 発行
11	新規	商店街エリアの拡大検討事業	宮町、松栄町一帯への拡大を検討する	H23年～ H25年: 拡大の検討、加入への調整

5. 主な事業の具体的な内容


(1) 強化事業

事業名	①空き店舗対策事業 [事業内容の再構築]
課題	・店主の高齢化、後継者不足→廃業・閉店の恐れあり ・貸し渋り、貸店舗とする意思が見受けられない ・テナント(店子)の誘致→採算性が課題
時期	H24年:対象空き店舗(家)、入居者の検討・選定する H25年:実験店舗開店する
目的	空き店舗の解消し、活用する
内容	・足助地区商業配置計画に基づき、チャレンジショップ的な役割やコミュニティ機能を持った店舗又は施設の導入を目指す ・ワンデイショップ等の企画も検討する 事例)三重県四日市市「こらば屋」、大阪府羽曳野市「恵カフェ」ワンデイシェフ・システム等 ポイント:交流機能を持つコミュニティ創り。生きがいづくり。新たな商業者づくり 事業主体:民間、任意団体 運営:登録している料理人が2週間～月単位で運営する 内容:一つのお店を使い、2週間～月替わりの料理人がランチを作りお客様に提供する方法。 「料理が好きな主婦や団体」「将来お店を持ちたい料理人」にシェフとして登録してもらい、腕をふるう


事業名	②ポイントカード推進事業 [事業内容の再構築]
課題	・現行の「もみじカード」の充実、再構築する必要がある ・売上拡大に結びついていない
時期	H23年:組織、事業内容の現状の検証する H24年:カード事業を再構築し、事業費を試算する H25年:実施する
目的	・固定客を確保する ・お客様づくり(ファンづくり)を行う
内容	・ポイントカードの意義の再確認→ルール統一、規約の作成を行う ・組織の充実→実態ある組織の再編成を行う


事業名	③中馬なごやか市事業
課題	・商店街への波及効果が薄い ・観光客対応の市の開催の検討が必要である
時期	第Ⅰ期計画事業として毎月第3日曜日に実施、第Ⅱ期においても、継続実施している
目的	集客の増加と、回遊性の向上を目指す
内容	観光客対応策 1 広告宣伝方法の検討する ・広域に開催告知を行う必要がある 2 観光客ニーズにあった市を展開する ①品揃を検討する ・流行物の出店→市の目玉になる ・新鮮な地元農家の野菜・果物の取り扱い ・その土地ならではの農作物や食べ物の取り扱い →食べ方、調理の仕方などを添える ・その場で食べれる飲食の取り扱い 3 商業者の意識改革を行う ②景観づくり ・プチ観光(非日常)を味わえる ・女性が好む商品陳列や配置(清潔感、オシャレ、色とりどり)

(2) 新規事業

事業名	⑦重伝建を見据えた個店のゆるやかな業種転換事業
課題	・業種に偏りがある ・趣味の店が多く商店街としての魅力がない ・売上確保が不安である ・現在の業種のままで良いか不安である
目的	・多彩な業種の導入による商店街の魅力化を図る ・売上を拡大する
時期	～H25年:3年のうち2店舗の実施を目指す
内容	・1店舗で2業種を取り扱うお店づくりを行い、個店の強化、魅力ある店舗の集積を目指す ・店舗の軒先や売り場面積の一部を貸し出す「一坪ショップ」を行い、商店街の魅力化を目指す 事例)山中温泉南町ゆげ街道(石川県加賀市) ◆老舗八百屋「加賀・地物野菜なかまさ」◆和紙ギャラリー「ギャラリー耀」  店内はギャラリーと八百屋が自由に行き来できる 1つの建物で入口が2つ、左はギャラリー、右は八百屋

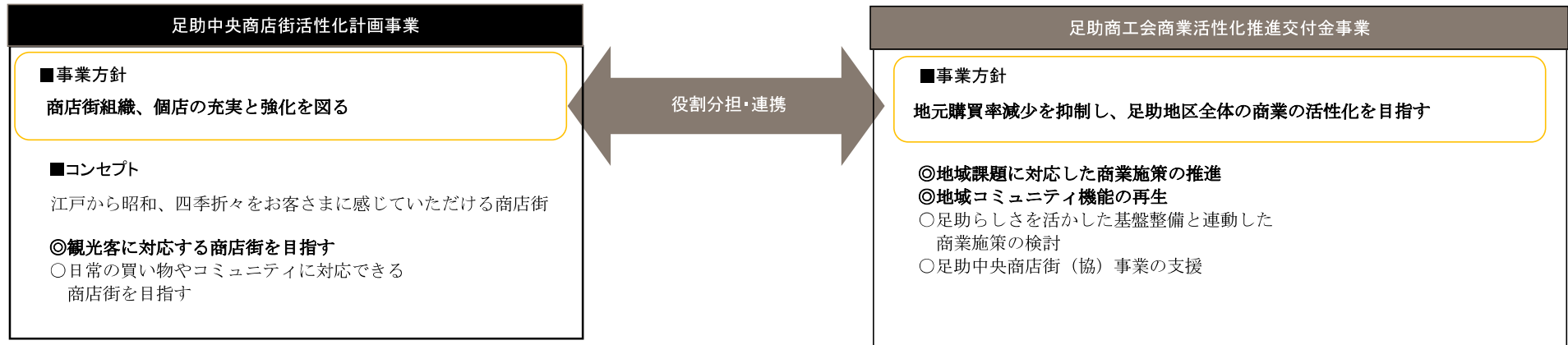
事業名	⑧集客イベント事業
課題	・『既存イベントを活用する(夏まつり)』→昼間の集客力が低い ・『(香嵐溪等)観光資源を活用したイベントを開催する』→商店街への観光客の入り込みが少ない
目的	・商店街内の回遊性の向上、歩行者通行量の増加を図る
内容	『既存イベントを活用する(夏まつり)』 ・8月上旬のたんころりん、8/13・14・15の 花火・万燈に合わせ、昼間に動員が図れる イベントを検討し、開催する 『(香嵐溪等)観光資源を活用し、観光客の入り込みを図るイベントを開催する』 ・お店と名所を巡るスタンプラリーを開催する ・ウォーキング講習会を開催する ・お店の逸品を巡るイベントを開催する
時期	8月上旬～中旬 11月～12月上旬(香嵐溪の紅葉シーズン)

事業名	⑨(仮)おかみさんPR隊
課題	・情報発信が不足している ・商店街の担い手が不足している
目的	●商店街の情報発信を行う ●女性客に対応したサービスやイベントの提案をする
時期	必要に応じて、活動を行う
内容	 オリジナル商品の販売 女将さんマップの作成 ・商店街の装飾を担当する ・四季のイベントを開催することを検討する ・情報紙の発行をする

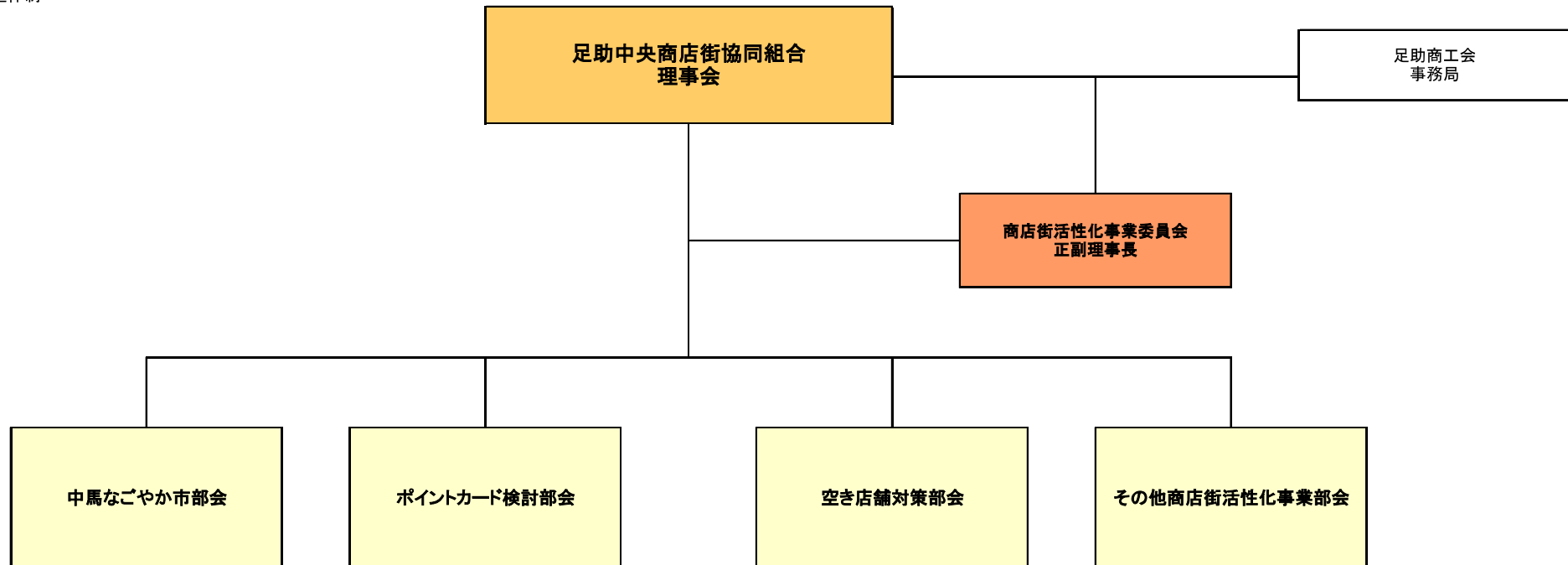
事業名	⑩店舗ガイドブックの発行事業
課題	・情報発信が不足している
目的	・商店街の情報発信を行う。特に、地場産業、名物など足助の特徴や伝統の紹介を行う
時期	H23年:掲載内容の検討をする H24年:発行する
内容	お店のこだわりを克明に紹介した内容の情報誌を発行する 

6. 推進体制

(1)「足助中央商店街の事業」と「足助商工会の交付金事業」の位置づけ及び連携



(2) 推進体制



7. 活動記録

(1) 会議記録

第1回ワークショップ
平成22年10月25日(日)19時～21時
今の商店街の良いところと問題点を抽出し、共有する！ <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の課題の抽出と共有 ・第一期商店街活性化計画(H20～H22)の事業評価 (目標達成度合実施状況等)
第2回ワークショップ
平成22年11月8日(月)19時～21時
足助の商店街の将来の姿(5年後)を考える！ <ul style="list-style-type: none"> ・商店街活性化の方向 ・目標設定 ・重点事業検討
第3回ワークショップ
平成23年1月24日(月)19時～21時
具体的に、「商店街の今後の方針、目標、ターゲット、新規・重点事業等」について固める！ <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画(案)の検討 ・基本方針 ・目標、ターゲット ・新規、重点事業の検討
第4回まとめ
平成23年2月21日(月)19時～21時
事業計画をみんなで確認・検証する！ <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画(案)のまとめ

(2) 視察研修

平成22年12月7日(火)9時～19時
伊賀市、亀山市(関宿)
「このような商店街になったらいいなあ、まちづくりができればいいなあ」を視察する！
 